

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月13日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671100115
法人名	社会福祉法人 野の花会
事業所名	もうひとつの私の家なでしこ (2階)
所在地	鹿児島県南さつま市加世田村原1丁目9-6 (電話) 0993-53-8885
自己評価作成日	令和6年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所はその人の最期まで尊厳を保ち、日常生活の継続の中で最善を尽くし、その人らしい生活を続けられるようかわり続け、そして本人、家族の思いを尊重した選択で、法人の他事業所、家族などと連携を行い、本人にとって最善のことをチームで考えるように努めている。お一人おひとりが「食」にかかわる様々なプロセスを通じて、「力」を発揮され、役割や楽しみ、喜びにつながるよう支援する。(一日一日が最良の日と思っていただけるような支援を積み重ねる。) そのためには、スタッフの「死生観」を育てる取り組みを継続している。

また、地域の人、これまで大切にしてくられた人や場所とのとの関係が途切れることのないよう、家族の協力を得て「外出」の支援を行う。感染症対策を行い、日常的な散歩だけでなく、本人の思いを大切に、お墓参り、懐かしい場所や、懐かしい人に会う機会を得られるようにする。このことにより、本人の意欲を高め、地域への認知症の人の理解にもつなげる。

そして、地域の方々が気軽にホームに立ち寄り、相談できる窓口となることを目標として、これまで培ってきた認知症の人の理解や支援の技術を地域へ還元してゆく機会を増やしていきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

もうひとつの私の家なでしこ2階

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の共有化のために年度毎にグループワーク（リモート会議）で学び、話し合い、日々のケアに取り組んでいる。またお年寄りの尊厳を支え、理念を実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の暮らしの中でスタッフ、お年寄りとともに感染症対策を行いながら、散歩・買い物や地域の人々に解放されている「癒しの庭」での挨拶を行っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	法人には既に講演や介護予防教室・ヘルパー講習などの実績があり、「認知症になっても安心して住める街、加世田」を目指し、地域が連携して「支援パス」の活用を行い、認知症の方とご家族、地域の方々へ発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、定期的に運営推進会議を行っていないが、これまでは、出された意見や提案をもとに発展させた地域との交流（清掃活動においての交流）は続けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者からの情報提供もメールなどで細くなされている。グループホームの運営面についても日常的なやりとりができています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人の理念に深く関わっており大切に取り組んできたことである。新人スタッフにもまず初めに理解を求める研修を継続して行い、法人一丸で取り組んできた。また勉強会も行っており、スタッフも確認が来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の母体である特別養護老人ホームで開設当初から基本として取り組んできた実績があり、管理者・スタッフは採用後必ず基本として学ぶ環境にある。マニュアルもあり、現任職員の間でも勉強会で確認している。身体的虐待が無いことは当然であるが日常の言葉使い、スタッフの行いの中にも敬意を持ってあたるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設外研修で学んできており、毎年伝達講習（勉強会等）を行い、法人全体で必要な人にはそれらを活用できる体制が整っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は管理者とケアスタッフで読み合わせながら説明を行い実際の暮らしの内容を十分に理解・納得していただけのように対応を心がけている。また解約に関しては今後の不安のないように法人内のソーシャルワーカーや居宅ケアマネージャと連携して対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居時に重要事項説明書により苦情、相談窓口の担当者がいることをご本人、ご家族へ書類・口頭で説明しており、普段の会話の中からスタッフで汲み取る配慮もしている。また法人内に第三者委員も設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、運営者・管理者を含む、全スタッフ出席の（ウェブ会議で）定例会を設けており運営・サービス内容などともに協議している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人内において、人事考課制度及びキャリアパス制度がすでに導入されており、職場環境の整備へ積極的に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外でのウェブ研修を受ける機会が多く設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人代表者と管理者が県の認知症介護指導者でもあることから、県内の同業者の研修施設として多くの方との交流も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談のあった時点で法人内共通のフェイスシートに本人の身体状況や環境・生活歴・相談内容を記入し分析するとともに本人の思いを大事にした関わりで不安の解消・望みの実現に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談のあった時点で法人内共通のフェイスシートに相談内容を記入し分析するとともに家族等の思いを大事にした関わりで不安の解消・望みの 実現に努めている。又、介護疲れなどからくる体力的・精神的苦痛にも配慮した対応を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に関わった居宅ケアマネジャー・ソーシャル ワーカーとも協力し本人と家族に必要なサービスを見極めホーム入居までの支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で共に携わる家事や菜園づくり四季の行事などで喜怒哀楽を共有すると共に、スタッフは昔のしきたりや郷土料理などを教わることも多く、本人の語る人生からも学び得るものは大きい。また、一つの家族として共に暮らす人 同士の思いやりある言動や、スタッフも含めた互いへの思いやりの言動など 暮らしの支えとなっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしに関わっていただくことはもちろんであるが、家族と地域と文通など家族状況に合わせて負担にならない配慮や介護に関する悩みの傾聴も行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの想いに添い実現できるように支援に努めている。手紙や電話、タブレット端末などを活用している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域の中で育まれた関係やホーム内で築かれた関係などに留意しその変化にも配慮して支援している。日々の暮らしが安定しお互いが支え合う環境になるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要介護度の変化や入院などで退去されても本人・家族がホームでの暮らしを切望することが多く、法人内の他施設や居宅ケアマネジャーの協力も得ながら関わっている。またスタッフも施設・病院の訪問、電話などで近況の確認など行い本人・家族が不安にならないように心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いを大切に、その方らしく暮らしていただくために、本人・家族からの話を傾聴し、本人に関わる各専門スタッフからの情報や、法人内共通の支援パスシートや、生活歴・ライフスタイルを中心としたアセスメントを活用し把握に努め本人の視点に立ち、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの思いを大切にその方らしく暮らしていただく為に本人・家族からの話しの傾聴はもちろんであるが、本人に関わる各専門スタッフからの情報・法人内共通のフェイスシートや生活歴・ライフスタイルを中心としたアセスメントを行い、その方の人生を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の家での日常に関する把握はもちろんであるが、ホーム入居後はモニタリングを行い一日の過ごし方、心身状態、有する力など各専門スタッフからの情報も取り入れ総合的に把握するように努めている。また日々の経過も記録されている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフも交えた本人・家族との日々の会話や、スタッフ間で毎日行われているミニカンファレンスの中で話し合われた内容、専門スタッフの意見なども反映し定期的なモニタリングと紙面でのサービス担当者会議で検討し介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録し毎日のミニカンファレンスで情報を共有し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「もうひとつの私の家なでしこ」はグループホームであり事業所としては多機能性は持ち合わせていないが法人が 特別養護老人ホームを母体にその人を 生涯支えるサービスを整え理念を統一したサービスを展開しているため要望に 応じた柔軟な支援ができています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて支援されている。また、ホーム全体でもいろいろな地域資源と協働できるように働きかけを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人のクリニックをかかりつけ医としている方が多いが、本人・家族の希望を大切に今までのかかりつけ医との関係を継続できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内にクリニックがあり気軽に相談できる環境にある。また、定期的に往診、訪問看護師の訪問で健康管理や健康に関する相談を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は定期的に連絡を取りできるだけ早期に退院できるように支援している。又同法人内のソーシャルワーカー・居宅ケアマネージャーとも連携し円滑に退院できるように行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時への対応も含めて、家族との話し合い、スタッフ間での話し合いを行っている。必要な方には不安にならないように運営者自ら話し合いに加わり方針を共有している。同法人内のチームで行う定期的な会議にて情報を共有しながら今後の変化に対応するために、検討や準備を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルもできており緊急対応されている。又ケアワーカーも必要最低限の対応ができるよう、定期的に研修を行い、（シュミレーションを行い）落ち着いて確実に実行できるように繰り返し学習している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いろいろな場面を想定し定期的な防災訓練を行っている。スタッフ・市職員の防災意識も高く、日常的な安全点検を怠らず、また、これまで運営推進会議で協議を行ったことや、地域の人々との良好な関係づくりを心掛け、協力を得られるように働きかけに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念に深く関わっており、もっとも大切にしている。新人スタッフにもまず初めに理解を求める研修を行い、慎重に取り組んでいる。またマニュアル、基準書で随時確認出来るようになっており、勉強会も継続して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	暮らしの中で同じ目線で話の傾聴を行い理解していただけるように配慮している。また自己表示の困難な方にも表情や仕草から受け止め寄り添いながら自己決定を大切にそして継続できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のペースにあわせてゆっくり待つことを基本にその人らしく暮らせるように支援している。また、一人ひとりを知り、本人の希望を遠慮なく言える声掛けで自己決定していただき家族の協力を得ながら本人の思いに添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節にあった日々の身だしなみはもちろんであるが、外出時にふさわしい支援をしている。洋服はもちろんお化粧品、理容美容も馴染みのお店へ出掛けたり、希望によってはビューティヘルパーを利用しカット・パーマ・染めなどおしゃれを楽しまれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材選び、買い物から後片付けまでお一人おひとりの力を活かして、喜びと自信を持って、スタッフと共に一緒に楽しみながら行っている。また嗜好・栄養や郷土料理・季節感を大切に献立し配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残して把握している。栄養バランスについてもスタッフ勉強会での知識の共有を図り同法人の管理栄養士からの助言などで適切に確保できている。又、ホームで用意する食品以外の親しい方からのお心遣い・贈り物・買い物などの摂取量の把握にも努めその後の様子からバランスをとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	同法人内の専門の歯科衛生士の指導によりお一人おひとりの口腔の状態・本人の力に合わせた支援を毎食後行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の誘導の必要な方は排泄パターンの把握に努め、プライバシーに配慮を行い、案内している。夜間も失禁の不快感がないように、お一人おひとりに合わせて適時案内を行っている。昼夜を問わずオムツ・リハビリパンツの使用をしないで快適に過ごされるよう取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼ることなく適切な食事・運動・水分補給で下剤を使わない便秘予防に取り組んでいる。水分は体重にもよるが、1日に1500CCを目標にその方に応じて朝の冷たい牛乳・お茶寒天も取り入れている。以前、薬を処方されていた方も医師と相談しながら減らしていき自然でスムーズな排泄のリズムを取り戻されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日、年中いつでも入浴できる体制となっており、時間帯に関しても現在は主に午後からの入浴が多いが24時間、希望があれば入浴できる。体調不良でなければ 個浴でゆっくり楽しんでいた見守り、くつろげる雰囲気を大切にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりに合わせて対応されている。休息に関しても閉じこもり孤独感に配慮し、見守りを行うことで昼夜逆転につながらないよう気持ちの良い睡眠につなげている。夜間もゆっくりと休んでいただけるよう昼から継続した対応で行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示により正確に服用されるように、お一人おひとりの服薬関連のファイルを作成しスタッフが理解できるようにしている。また、令和2年11月より、服薬支援システムを導入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や生活歴から役割・楽しみを 共に模索し支援し常に自信を高めるような言葉かけや働きかけを行い喜びにつなげている。日常的にドライブなどを楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日のお買い物・散歩やドライブ等、コロナ禍の中でできる限り、本人が趣味活動などを続けられるよう、また、家族などとの電話、手紙などを活用して、絆が途切れることのないよう工夫を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフは、本人がお金を持つことの大切さを理解しており金銭の管理が出来ない方も家族の理解を得て、小額のお小遣いを持っていていただき買い物時に、ご本人がお財布からお金を出し、好みのものが購入できるようにその緊張感を大切にしながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	支援している。電話の取次ぎや手紙・ファックスの受け取りはもちろんであるが個人で電話が自由にできるよう、利用可能な方には携帯電話も勧めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・天候や時間に合わせて配慮している。調度品や備品は入居者にふさわしく配慮し調え、物品も入居者の意見を取り入れた電化製品などを準備しており、フロアの装飾も入居者の手作り作品など配置したりと家庭的な雰囲気になっている。また、季節の行事の馴染みの装飾など入居の方とともに楽しんでいる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・廊下のスペースをソファや 予備の椅子、観葉植物などで必要に応じた模様替えが行えるようになっており各々に和やかな語らいの場や穏やかにひとりで過ごせる空間も確保できている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的な家具はホームにて準備しているが、持ち込みは自由である。家族の協力により、大切なもの・思い出の品・使い慣れた道具などの持ち込みもあり、安心して過ごされる居室の環境が整っている。入居時にご家族へも馴染みの物を持参するように呼びかけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	生活に関わる場は同法人内のクリニックのPTの助言を取り入れた自立支援を目指した設備設計となっている。また、お一人おひとりの身体機能の変化に合わせ、ケアの内容とともにPT・専門スタッフと検討し安全を保ち自立した生活を送れる環境づくりを行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない